

1月28日、本部ご供養会でございます。寒修行もあと少しです。体に気をつけながら、ご修行をお願いいたします。

本日体験発表を頂きましたが、この方は聖地やご供養会でお会いするといつも笑顔なのです。笑顔が素晴らしい方はお導きをするにあたって、大きな一つの方便になると思います。自らがこの妙智の教えをいただいて楽しい嬉しい、素晴らしいという思いで話をさせていただきたいと思います。

そして一番大切なことは、先祖の供養のことだけを言えばいいのです。会主さまがよく「妙智會のお導きの話の根本は、先祖供養だけでいいのです。」とおっしゃいました。

相手がどんな状況であれ先祖供養は尊いのですから、先祖供養の話それだけでいいのです。相手の先祖は供養をしてもらいたいから、味方をしてくれるのです。先祖供養の話は必ずいつかは花開きますので、是非お願いいたします。

もう一つ今私が思うことは「コロナの変異」のことです。この変異に関して二、三週間勉強をした中で、こういう項目で法名をつけると言えば大丈夫なのだとわかりましたので、鈴木教務理事に指示をしました。なぜもっと早く、変異に関して法名をつけなかったのかと思われるかもしれませんが、学んでからでなければ法名をつけてはいけないのです。

会主さまが残された法名というのは、会主さま自身が大変お勉強されてご順序をしたものなのです。ここがとても大切で、ただ靈界からつけなさいでつけたのではなく、一生懸命学んで素晴らしい項目を自分で順序することが妙智會の法名なのです。

私も今勉強させていただいて、その変異に関しての法名をつけられるようになりました。この変異が遅れてくると思います。そのために今、修行をさせて頂いております。

もう一つの「言葉」というのは会主さまがよく「言の刃」というふうにおっしゃって、「言葉というのは刃物のように相手を傷つけることもあるから、気をつけなさいよ。言葉に出すと、生き霊になる。」「思うだけならばまだ生き霊が少ない。言うから生き霊というのは強くなる。」ということをおっしゃいました。

会主さまはまた「字というのは言葉とともに非常に大事だ。」とおっしゃいました。法名も読み上げているだけではなく、書写して形に残して初めて順序がつき功德が頂けるのです。先祖を過去帳に乗せるのが面倒くさいと言っている人は、功德半減なのです。全てのご先祖さまに生院徳の法名をお付けして引導を送り、お経を上げるということがとても大切なのです。

私たちが人間として生まれて先祖供養ができるということも、人間だから「字と声」でできるのだということを感じながら修行していかなければいけません。

このコロナに関して、私に変異をするものに法名をつけますから見ていてください。私が信じているものは全ての信者さんに伝えたいので、本日勇気を持って申し上げました。そしてその法名はきちんと私が「字」をもって「言葉」で供養をしていきます。そして結果が出たら、この妙智の会主さまの教えが正しいということ、さらに深めていただきたいと願っています。

繰り返しになりますが、寒修行頑張ってください。一緒に頑張りましょう。ありがとうございました。